

第4回富山県総合計画審議会

1 日時 令和7年11月18日（火）13:30～15:30

2 場所 ホテルグランテラス富山 4階 瑞雲

3 出席委員（五十音順）

麦野会長、齋藤会長職務代理者

荒井委員、大井山委員、大崎委員、片貝委員、小島委員、佐伯委員、三宮委員、

大門委員、唐山委員、中澤委員、延野委員、浜守委員、林口委員、松田委員、

宮田委員、村上綾子委員、村上満委員、森川委員、横井委員、米山委員

（オンライン出席）藤野委員、山辺委員

4 知事挨拶

【新田知事】

富山県総合計画審議会の委員の皆様におかれましては、お忙しい中、また、冷たい雨が降っております中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

私は、11月6日から一昨日まで7泊11日という珍しい日程、要するに、飛行機の中で4泊という日程でサンパウロとニューヨークに行ってまいりました。それぞれ目的を達して無事戻って今日ここに立っております。どうかよろしくお願いします。

前回の審議会では、素案を取りまとめていただきました。そして、その素案を基に県議会でまた議論いただき、市町村からも御意見をいただき、そして県民の皆様からパブリックコメントをいただいたところでございます。

パブリックコメントも大変幅広い御意見をいただきました。詳細は後ほど説明しますが、例えば、多様な交流、体験を通じた子どもの健やかな育成、あるいは、高齢者、障害のある方が文化芸術やスポーツを通じて自己実現を図る機会の充実など様々な御意見をいただきました。パブリックコメントの御意見も踏まえてさらに素案を磨き上げて、今日お示しした答申案としてまとめさせていただいたところでございます。

計画の名称ですが、これまで仮称で新たな総合計画と言っておりましたが、シンプルに「富山県総合計画－『幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～』」を目

指してー」としてはどうかということで提案させていただきます。

こうした計画の答申案について、予定では今日が最後の審議会になりますが、夢があり実効性のある計画となるよう、皆さんの忌憚のない御意見をお聞かせいただければと思います。どうかよろしくお願ひいたします。

5 議事

(1) 新たな総合計画答申案について

【麦野会長】

今回の総合計画でございますが、今年1月に計画策定の諮問を受けました。以来、3回にわたり検討を進めてきました。そして、この間に分野別の関係団体との意見交換、15市町村で開催しました「未来共創セッション」、そして先月からのパブリックコメントでは、たくさんのパブリックコメントをいただきまして、後ほど御説明があると思いますが、意見総数279件と全国から意見をいただいております。そういう意味で、幅広い県民の皆様等から様々な意見を伺いながら、骨子案、素案、そして今回の答申案と徐々にブラッシュアップしてきたものだと思っております。

今回は最終の審議会の予定でございますので、これまでの集大成となる新たな総合計画の答申案につきまして皆様から御意見をいただき、取りまとめを行いたいと考えております。

それでは、次第に従って進めてまいりますが、まず議事の1番目、新たな総合計画の答申案につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

事務局から資料1、2に沿って説明

【麦野会長】

今ほど事務局から、パブリックコメントの意見、そして県議会での議論を踏まえた新たな総合計画の答申案について説明がございました。

冒頭に知事からもお話がありましたが、今回のこの計画の名称でございます「富山県総合計画ー『幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～』を目指してー」につきまして御意見がございましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

今まで何度も県の総合計画が作られてきましたが、「富山県総合計画」という名称を使ったことは一度もなかったのであります。もともとのところに戻った案というわけであります。

御意見がないようですので、この計画名を採用させていただきます。

次に、答申案の内容についてでございます。パブリックコメントは、先ほど言いましたように、279件とたくさんの御意見がございました。細かいところについても事務局ではかなり反映したということでございますが、これにつきまして、何かお気づきの点がございましたら委員の方々から御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

【藤野委員】

今回、「幸せ人口1000万」とウェルビーイングを掲げてこのような計画を立てられたことに関して、富山県としての意気込みと先進性を非常に感じる内容になったと思っております。

私はスタートアップの担当で、この審議会が発足してから議論にかなり時間も使いましたし、麦野会長や知事をはじめ、委員の方と様々な議論をしてきました。現状のところの見立てとしては、富山県の中でスタートアップの文化であったり、スタートアップの土壤が少しづつ醸成されてきたと考えております。ただ、スタートアップの会社が活発に起業されるような状態になっているとはまだ言えないということですけれども、昨年に関しては、大学発スタートアップの変化率で日本一というところで、勢いが出てきたと感じております。

そのような中で私がすごく重要なことは、「モメンタム」という言葉です。全体そのものを大きく上げることはなかなか難しいのですけれども、勢いというところで、施策の中の取り組みやすい、もしくは変化率が出そうなところは各課題の中でたくさんあるとお見受けしました。その中で、しっかりと成果が出て、その成果が目に見える形で変化率が出てくると勢いが出てきますので、そうすると、この計画に乗っていいのではないかとか、皆と一緒に心を合わせて取り組もうという気持ちがどんどんつくのではないかと思っています。そういう面で見れば、このスタートアップのところで、私もこの「モメンタム」がつくようにしたいと思っております。

今、「とやまワカモノ・サミット」には、私もかなり時間を取って、実際に富山駅前で高校生を中心としたイベントもしていますけれども、そのような形で具体的に汗をかいて、

成果が目に見えるような形にできていったらしいと思っております。

最後に、富山県のスタートアップで欠けているのが、具体的なお金が流れて、投資されて、その投資した会社がどんどん大きくなっていくという、東京で起きているような動きがまだ始まっていない点です。T-S t a r t u p でこれから成長するスタートアップの予備軍を育成していくということをしていますが、具体的に投資をする、されるというような形でお金が動くと、それが成功という形で目に見える形になる、その「モメンタム」をつくることが大事だらうと考えております。

私も一員として、スタートアップのところでしっかりコミットして、5年、10年の中で成果が出るように頑張っていきたいと思っております。

また、皆様の所管のところでもお手伝いできることができたら、何なりとお話をいただければ、私ができることは何でもしたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【米山委員】

「こども・子育て」のところで、「未来に向けた人づくり」のことがすごく詳しく書いてあるのですが、「新川こども施設」というのは存じ上げなかつたので、どういうところなのか気になりました。

全体としては、パブリックコメントやこれまでの様々な方の意見を取り入れて本当に大変だっただろうなと思います。私も現場からの意見を言わせていただき、いろいろなことを取り上げていただいて本当にありがたかったです。

前回も言ったのですけど、若い世代やこどもにとって、「スタートアップ」はすごく大事だと思うのですが、どうしても今、高齢化に向かっていくので、個人的には、いかに介護を受けないかというところにすごく興味があり、重要視しています。仕事を辞めた方々がその後、行く先を失って介護状態になってしまふということを結構目にすることがあるので、そういう方たちが、行く場所があるとか、働き続けることができるというところ、介護度が上がると国の財政が圧迫されるので、いかに元気でいてくれるかというところにとても興味があります。最後まで生きがいを持って介護を受けないためにどうということをしたいいいのか、皆がそれぞれの好きなことをやるということが全年代でできたらよいと思っています。

【麦野会長】

「新川こども施設」の整備のところ、現状と予定も併せて、事務局からコメントをいただければと思います。

【事務局】

「新川こども施設」は、魚津市の新川文化ホールの敷地に建設を予定しているもので、お子さんが雨でも雪でも天候に関係なく遊べる場として今後整備を行うものでございます。

【村上（満）委員】

「新川こども施設」の話も出たので、例えば「こども安心センター」が、児童心理治療施設、学びの場、そして相談機関が三位一体となった県立施設は日本海側初というようなことも大きく取り上げられているかと思っておりますので、そういう記載がどこかにあればよいと思います。

【片貝委員】

私の場合は字を読むよりも、写真やイラスト、グラフなどに先に目が行くため、一般の方々もそのような傾向にあるのではないかと思っています。

そうしたときに、今回どのような写真が出ているかということを拝見したのですが、生き生きとした写真や美しい写真もあったのですが、今ちょうど開いている19ページに「こども総合サポートプラザ」の写真が出ているのですけれども、正面からではなく、横から奥行きのあるような撮り方になっていて、この施設の写真を出すのであれば正面から施設名が見える方がいいのではないかと思います。

また、例えば12ページに10年後のイラストがありますが、それぞれの「10年後の目指す姿」のところにも同じようなものがあれば、イラストで結びつき、より目を引くのではないかと思います。そういう意味で、笑顔やいきいきと活動している姿などのイラストもあればよいのではないかと思います。

【宮田委員】

今回のパブリックコメントの中に多文化共生に否定的な声があまりにも多かったことはとても大きなショックを受けました。私は富山で32年間、外国人への日本語教育に携

わっていますが、これほど外国人に対する風当たりが強くなったのは初めてではないかと感じております。

ただ、パブリックコメントの多くが県外からの意見であり、富山で実際に暮らす私たちが大切にしてきた互いを支え合う富山の姿とはかなり距離のある声だと感じています。私は、だからこそ、ここで迷わず多文化共生施策を進めていただきたいと思っています。

富山県内で外国につながる住民の方々は既に2万4,000人と、地域を支える欠かせない担い手になっていると思います。これは数字の上でも、そして現場の実感としても搖るぎない事実です。批判に反応して後退することは簡単ですけど、富山が本当に目指すべき未来は、短期的な声に左右されるのではなく、「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」を目指すという一貫した長期ビジョンに基づいて判断を積み重ねていくことだと考えています。

その意味でも、今回の総合計画は見せ方にも工夫されて、こどもや外国の方にも関心を持って自分事として読めるように工夫されているのは非常に大きな意味があると思っています。これは、単なる優しい表現ではなくて、県民の誰もが計画の当事者であるというメッセージそのものだと思っています。情報発信や理解促進においては、もちろん私たちの現場も必ず力になりたいと思っていますし、行政と地域が同じ方向を向いて協働することで、この計画は、紙の計画ではなくて、県民の未来そのものに育っていくと私は信じています。

こどもたちのために、そして、富山に暮らす全ての人が富山を誇りに思える未来のために、私はこの総合計画が大きな一歩になってくれるのではないかと確信しています。

【三宮委員】

24ページの「文化・スポーツ」について、パブリックコメントの有益なコメントを盛り込んでいただいて本当によかったと思っています。

24ページの5年後の姿に「美術館等を訪れ、文化芸術に親しむ人が増えています」「県立美術館等において美術や文学などに親しむ来館者について、1割以上の増加を目指します」とありますが、25ページの主要施策では、美術館や博物館、文化ホールなどと、美術や文学だけではなくて、音楽や演劇も盛り込んでいただいております。できれば、この24ページの「美術館等を訪れ」あるいは「美術や文学などに親しむ来館者」のところにも、音楽や演劇を盛り込んでいただけるといいのではないかと感じました。

今の文章だと美術寄りの感覚がするのではないかと思いまして、もう少し包括的な書き方にしていただいた方がいいのではないかと感じます。

【林口委員】

計画全体については、本当に回を追うごとにしっかりと練られていて、どの方向に対してもしっかりと配慮ができたすばらしいものになっていると感じております。

先ほどの宮田委員の意見に続くような形ですが、私も外国の方の受入れについての御意見が多いことに非常にショックを受けました。今の社会の風潮がこういったところにも反映されるのかと思って驚きました。外国の方の受入れについて観光の側面からも少し状況なども踏まえて御意見させていただくと、受け入れるということは、排除するか、同化するか、多文化共生するかの3つが主にあると思います。やはり富山県としては多文化共生の道を歩むのだということをこの計画で謳っているので、現在のいろいろな兆候がどうであれ、そこはぶれずにしっかりとそれに向かって具体的な施策も実行していっていただきたいと思います。やはり排除、同化というのはもう現実的な選択肢ではないと思っています。

観光の側面から言いますと、もちろん観光でたくさんのインバウンドの方が訪れておられるのですが、その方たちが単に観光だけではなく、関係人口に結びつく可能性が非常に高いということを実感しております。例えばですが、1週間ほど前に来られたアメリカのお客様は、地域やものづくりの課題、あるいは人口減少、空き家増加の課題といったことをお話ししますと、それに対して何かできることはないかということで、例えば地域の產品を1組の方が650万円分買ってくださいました。それは御自分たちがいいと思うからだけではなく、地域のためになるからという思いで買ってくださっています。

そういう経済的な面も大きいですけれども、もう一つは、砺波ではカイニョ（屋敷林）お手入れ支援というものがあります。屋敷林がどんどんなくなっていく状況があり、なかなか手入れが難しい中、ボランティアで手伝う方々がおられます。私たちの宿でもその活動に参加しており、昨年からツアーハウス化して、今年は東京から8名、アメリカからも2名参加してくださいます。そのアメリカの方というのは今年5月に来られたばかりですが、こういった活動をしていると言ったら、ぜひそのお手入れを支援したいということで、もう一度訪問してくださることになりました。しかも空き家に対しても非常に関心があつて、できれば日本に家を持ちたいから、空き家のツアーハウスをしてほしいということで、今回空き

家視察もいたします。今週だけで3組の日本の方、2組の外国の方の空き家視察ツアーをしています。

そうやって長期的に関わってくださる外国の方が増えつつあり、それに対して、自分たちもソフト的な観光をするだけではなくて、ハードの面でもしっかりと対応していくような組織に変えていかなければならないと思っています。

そういう現実、状況もありますので、ぜひ多文化共生についてはしっかりと取り組んでいただきたいと思います。また、例えば今のような外国の方の投資を入れるに当たっても、地域づくりに資する投資と地域のサステナビリティを損なう投資がありますので、それをしっかりと選別できるような条例を急ぎつくっていただきたいと思っております。

【麦野会長】

では、一旦、取りまとめとさせていただきたいと思います。

お話を聞いていまして、全体的には基本的に賛成の御趣旨の意見が多かったように思います。ただ、いくつか修正してほしいという意見もございましたので、そこにつきましては、また事務局と相談しながら、会長である私に一任していただければありがたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

では、修正したものを審議会の答申ということで進めさせていただきたいと思います。次に、議事の2番目、今後のスケジュール等に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(2) 今後のスケジュール等について

【事務局】

事務局から資料3～5に沿って説明

【麦野会長】

今ほど事務局から今後のスケジュール、周知・広報、予算編成方針について説明がございました。計画が作成された後には県民に対する周知、そして県民、事業者を巻き込みながら着実に実行していくことが必要になってくるわけであります。については、県民への周知、あるいは計画の実行について皆さんから御意見をいただきたいと思います。

最後の審議会でございますので、これから県政に期待することについてでも結構でございますので、皆さんから御意見をいただきたいと思います。

【松田委員】

今回の総合計画ですけれども、各層の御意見を聞いたり、15市町村での「未来共創セッション」やパブリックコメントと、かなり丁寧につくられたということで、事務局の御苦労に大変感謝申し上げたいと思いますし、非常に分かりやすいものになったのではないかと思っています。

また、ウェルビーイングや「関係人口1000万」がどういう定義なのか、あるいは現状はどうなのかということも丁寧に書いてありますし、人口減少対策でくくったことも非常によかったです。丁寧につくったものを県民の皆さんにどう分かっていただくかということも次の課題になってくると思いますので、これにしっかりと取り組んでいくことも重要だと思います。

答申案についてですが、かねてから県内での地域内経済循環にしっかりと取り組んでいくということを言ってきました。例えば「産業・GX」の中にサーキュラーエコノミーの記載があるのですが、これは各産業の中でのサーキュラーエコノミーという話で、やはり多種多様な産業間、これは人づくり、ものづくりも含めて、それを超えた地域内循環という概念が必要だと思います。例えば、12ページに俯瞰した絵があって、この「スタートアップや新たな産業が生まれ、地域経済が循環」との記載について、当然、既存の企業も大事でありますし、産業を超えたといいますか、「産業や企業、そして様々な活動において地域の循環が必要」というように修文いただければ分かりやすいのではないかと思います。

いずれにしましても、非常にすばらしいものが出来上がったと思っています。県民の方に5年後の富山県の明るい将来を見ていただきながら、本当に富山についてよかったです。あるいは外から富山で仕事をしてみたいと思える県になるようなしっかりした計画になると思います。本当に期待しておりますので、よろしくお願ひいたしたいと思います。

【横井委員】

新田知事はじめ、富山県の担当の方、本当に御苦労さまでした。非常に丁寧な手法、丁寧な段取りを踏んで富山県総合計画が今、ほぼ完成に至ったということについてまず敬意を表したいと思います。

おっしゃるとおり、今後必要なことはまさに周知、広報になりますが、総合計画でありますから、ありとあらゆる分野のありとあらゆる事項が取り上げられている、これはもう総合計画である以上仕方がないのですけれども、この予算編成方針のポイントにもありますように、この後は選択と集中であったり、メリハリをつけた実行というものが恐らく必要になってくるかと思います。5年後に、知事はじめ、皆さんがどういう成果があつたかということをどういう言葉で語るか、そして、私が最初から申し上げているとおり、この5か年の計画を通じて、富山県が単なる47の県のうちの一つではなく、富山県だからこういうことができた、これはまさに富山県方式であった、あるいは新田方式であったと語れるような計画を実施していただきたいと思っています。

相当ハードルが高いことを始めから申し上げて大変申し訳ありませんが、皆さんの御努力に対し敬意を表したいと思いますし、また、審議会の委員の方々に対しても敬意を表したいと思います。

【中澤委員】

この内容そのものは、確かに見方によってはいろいろ修正などが必要になってくるのかかもしれないですが、これは5年間もあって、環境も変わっていく部分もあります。また、県民一人ひとりがいろいろな目線や考え方を持っていると思いますので、一番重要なのは、やはり共有できるような計画であって、しかも身近で一人ひとりが将来も考えていくことだと思います。県の方々には大変な御負担の中でつくっていただいたのですが、この後は県民一人ひとりがどうそこに対して真剣に向き合うかということが必要になってきます。その中で修正が必要であれば修正するということも勇気を持って行う、もしくは付け加えることがあれば付け加えるといったことがあってもいいのではないかと思っています。ましてや将来、10年先を見据えた中での5年間ということ、この5年も相当長いとも言えると思います。ぜひともそういった柔軟性を持った対応なども必要に応じて御検討いただけたらよいかと思います。

現行計画も見させていただいたのですが、かなりページ数が多かったので、本当にこの新たな計画はコンパクトで、こどもから高齢者の方までずっと入ってくるような内容になっているのではないかと思いますので、期待したいと思います。

【森川委員】

周知と広報について、若者と子育て世代が今後の県づくりの担い手としてまとめられているのですが、それぞれにライフステージや関心事、必要な情報が違ってくると思います。そこを分けたり、若者も中高生から大学生、社会人まで層が広いと思うので、どの層かもはつきりしたら、より届きやすいものになるかと思います。

【村上（満）委員】

計画に関しては本当にすてきに、また丁寧につくっていただきましたことに改めて感謝申し上げたいと思っています。

答申案の60ページの「環境」について、以前、栄養士会の方と話をする機会があったときに、3Rと言われるリデュースやリユース、リサイクル、あるいは食品ロスのことも書いてはあるのですが、使うことへのリスペクトが大事だということをおっしゃっておられました。例えばこういった取組みに対してリスペクトしながら一層進めていくような、3Rだけではなく4Rということをおっしゃっておられたことが頭に残っていたため、少し申し上げました。

【村上（綾）委員】

予算編成方針のポイントに、能登半島地震を踏まえて、まず第1の重点施策に、復旧・復興の加速化ということが取り上げられております。

総合計画につきましても、今までの委員の方からもお話がありましたように、丁寧につくり込みいただきましてありがとうございます。

防災や減災について、人口減少やインフラの部分、また気候変動という両輪での課題を現在は抱えております。その中で、県民がこういった総合計画を知ることで、自分たちもそれに関わっていくと思っていただく自分事化が非常に大きなポイントと思っております。そのためには、こうした計画を周知、広報するとともに、人に寄り添うところでワークショップや出前講座といったものにより、少しでも共に進めていくことを今後、県に期待したいと思っております。

また、こういった地域課題には分野横断的に関わる必要がありますので、こうした会を通じて知り合った方々とも共に取り組んでいきたいと思っております。

【山辺委員】

すばらしい計画が出来上がり、これからはそれを実行していく段階になると思います。私もワクワクしながら見た中で、スタートアップの部分に注目しているのですが、既存企業との協業やスタートアップ企業が稼げるようになることも重要ですけれども、その中で、どうしても既存企業と連携するときに企業側としては大丈夫かなという不安感が出てしまうこともあります。ですので、富山でスタートアップの起業体験プログラムを受けると、品質保証のようなものが担保できるくらいまで教育をしっかりして、スタートアップ企業を創出する土壤をつくるといったことなどが富山モデルとしてあればいいのではないかと感じました。

また、周知のところで、先ほどからイラストや写真という話があったかと思います。今回グラレコを使っていただいていて、すごく優しいほんわかしたイメージなのですが、若干文字の上に色が重ねられていて読みづらいと感じましたので、こういったイラストやそれに似せた文字、書体を使われるなら、もう少し見やすい雰囲気があればなおよいと思います。

【浜守委員】

今回のこの計画については、富山県民の総意が凝縮された将来の在り方提言書というよう位置づけて、私自身思っております。

その上で、将来の公共交通がどうあるべきかということを真剣にもう一度議論しなければいけないと思っております。富山地方鉄道の問題もありますが、基盤交通はどうあるべきか、バスの自動化をいつのタイミングでどうしていくのか、さらには全ての交通が統合したアプリなども整備していく段階に来ているのではないかと思っておりますので、ぜひこの「まちづくり・交通」部門を少し優先していただきながら、施策を推進してほしいと思っております。

また、多文化共生について、先ほど委員の方からも発言がありました。私もここは重要な部分と思っております。外国人が住みやすい地域は経済が維持発展できると言われておりますので、ぜひ多文化共生も行っていきたい、行っていただきたいと思っています。また、ダイバーシティ経営ですが、性別、年齢、国籍、障害の有無など全ての違いを認め合った行政の手腕も要るものと思っております。各組織での価値や競争力を高める手法でありますので、ぜひお願いしたいと思っております。

【延野委員】

3点申し上げたいと思っております。

まず1点目は、資料4のところで、小学生向け新聞を作成し小学校等で全児童に配付、さらに学校を対象に出前講座という記載がされていて、これは非常にいいことだと思っておりますが、できれば先生用のものも用意していただければありがたいと思っております。

2点目は、参考資料のパブリックコメントの12ページ、109の項目で、「一次産業への経済支援を手厚くし、一次産業でしっかり稼げる仕組みを整える」という御意見があつたわけですが、その施策のさらなる展開をしていただきたいということと、予算に係るわけではありますが、補助金対応についても御配慮いただきたいと思っております。

3点目ですが、同じくこの参考資料の136の項目の「完全な移住ではないですが、季節的に、春から秋にかけて、稻作や夏秋野菜生産期に移住する事ができれば、それを第二の人生の選択肢になるのではと考えます」との記載について、「富山あぐりマッチボックス」で展開されていることもあります、今後もJAグループは協力いたしますので、その点のさらなる展開をお願いしたいと思っております。

【唐山委員】

この答申案についてはとてもよく仕上がってきています、大変いいものだと思っております。先ほどから皆さんがあつしやっているように、これをどうやって実現するかということがとても大事で、具体的な策を皆さん、できれば県民の皆さんを巻き込みながら実行でないとよいかと思っています。

また、先ほどから議論になっているのですが、パブリックコメントの特徴的なことは、やはり共生だと思います。私は、こういった御意見をお書きになっている方は、心配になっているのかと思っています。ですので、県民の皆さんのお意見を聞きながら丁寧に説明して納得いただいた上で進めるというプロセスがこれから必要になると思っております。

【大門委員】

計画名が「富山県総合計画ー『幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～』を目指してー」と、これは新田知事の思いがこの計画名に凝縮された富山県の総合計画であろうと強く思っております。

そして、「まちづくりは人づくりから」という言葉がありますけれども、その人づくりの根幹には「こどもまんなか社会」があります。これが一番大きく重要なミッションとして設定されているものと私は理解をしているところです。

また、答申案の42ページには「インフラの将来像の自分事化」という言葉があります。不便や不利益の受容性の向上という、これは県としては非常に踏み込んだ言い方をされたと思います。強靭なインフラの整備は必ず実現するということは県民に対するコミットメントである、ただし、限られた予算の中でやっていかなければならない。だから、しばらくの間、県民の皆さん、我慢するところは少し我慢してねという思いもこのメッセージに隠されているのではないかと思っております。

新田知事、そして県の当局の皆さんのこととを十分に県民の一人として信用して、ぜひ老朽化したインフラの整備も進めていきたいと思っております。

最後に、70ページには、政策評価と改善、立案の循環サイクルということで、毎年12の政策分野についてP D C Aを回していくという思いも謳われております。どちらかと言えば難しいP D C Aだと思いますが、この総合計画を策定された暁には、ぜひ1年ごとにP D C Aを回して、それを県民の皆さんに発表していただきたいと思っております。

【佐伯委員】

最初にこの審議会が始まったときに、県づくりの視点として「ワクワク」「しなやか」「共創」という言葉でスタートしました。この審議会を通じて、皆さんいろいろな御意見が反映されてだんだんよいものになっていって、途中「未来共創セッション」やパブリックコメントも加わって、本当に「ワクワク」「しなやか」「共創」が実現できている答申案になっていると思って拝見していました。

具体的には、「遊びのネットワーク」という言葉が「こども・子育て」に入ってきたのがとてもよかったです。こどもたちの生き生きした姿をこの「遊びのネットワーク」という言葉から想像しました。遊びの中からこどもたちの自発的な行動がどんどん生まれてきて、そうすると、こどもたちだけでなく、それを見守る保護者もワクワクして活性化してきますし、その保護者が元気になることで富山県全体も元気になっていくというよい方向の連鎖をとても想像できる答申案で、ワクワクが強化されたと思っております。

これからいろいろな方に広報されるということなのですが、こどもたちに伝わって、よりよい元気な富山県になっていくことを期待しております。

【小島委員】

この総合計画の中で「こどもまんなか社会」が第1番目であり、そして第1の大きな目標として掲げられたことを大変歓迎しております。今回、具体的に5年後の姿も含めて出されたことに対して大変感謝しております。

「地域の実情に応じた切れ目ない子育て支援が充実しています」という10年後の目指す姿が明確になり、放課後児童クラブの待機児童がなくなる、病児・病後児保育の実施箇所数が大幅に増えるなど、いつも目標として掲げられながらもなかなか達成されないということではなくて、「こどもまんなか社会」を実現する、そして富山県の総合計画の中でこれが実現されないと未来の富山県はないんだというような位置づけと私は感じております。

私も実際に子育て支援に関わる当事者ですが、多様な保育ニーズへの対応であったり、地域の様々なネットワーク、保護者のニーズだけではなく、民生委員や児童委員、地域の方が子育てでつながることなどが、例えばこども食堂で今、連携として現れています。また、不登校・ひきこもり対策でも連携として現れています。

これまでのように施策がばらばらではなく、総合的に「こどもまんなか社会」を実現するためにあらゆる団体が協力してこの目標を達成していきたいという気持ちになっておりますので、私自身が先頭になって「こどもまんなか社会」の実現を目指すと同時に、皆さんと大いに議論し、連携を深めていきたいと思っております。

【大崎委員】

本答申案については、他の委員の方がおっしゃったとおり、大変感謝申し上げます。そして、この周知・広報について、これも非常によろしい企画ではないかと感じております。デジタルの手法だけでなく、アナログの方法も重視してあって、これが有効に全世代、特に次世代の方々にこの計画が浸透していくと非常に期待が持てるのではないかと思います。

15市町村で行われた「未来共創セッション」のグラフィックレコーディングをひもづけて、さらに今後のビジョンをお伝えいただけたらと期待しております。

小中高、大学においては、地域社会の課題解決のワークショップ授業の取入れが非常に進んでいると聞き及んでおります。このことが、スタートアッププロジェクトもありますが、次世代の人材の育成、教育にひもづいていくことを期待いたします。特に、資料2の34ページの「アツギベンチャーを創出する」ということも、少子化と人口減少の中で

も企業を守っていくことや優秀な人材を創出するということとリンクしていけば、非常にすばらしいこの後の富山県がイメージできると思います。

私の主たる事業体の社会福祉法人も後継者問題で事業を閉じていかれるという事情が非常に多くあります。昨今では事業を閉じられる一番の要因となっています。

一般企業、特に中小企業が多い富山県においてもこの事情は非常に深刻だと思いますので、これから的新しい人材の才能と力がこういった形で結びついていくことも期待しています。

【大井山委員】

まず1つ目に、「新川こども施設」の件で、これは様々な検討会がもう何回も実施されていることもありますて、より深掘りした記載にしたほうがいいのではないかと思っております。富山県のこの10年の計画の中で、「新川こども施設」により特化した施策を今後進め、富山県のこどもたちの遊び場の一つの象徴となるような形に持っていくのだと思うのですが、やはり保護者目線でイメージすると、身近にそういう施設があったほうがいいと言われる場面はすごく多いと思います。こどもたちをわざわざ新川まで連れていくて遊ばせるということも少し負担になる方もおられる中で、ここだけに特化して10年間続けていくのかというような、逆にマイナスの印象を持つてしまう方もおられると思います。ここ以外にもどんなところを考えているのかという部分も見てみたいところもありますし、この「新川こども施設」でどういうことが行われるのかということが少し気になりました。この「多様な交流・体験等の特色のある活動」の詳細が少し見えるようになればいいと思っており、ここにせっかく追記されたので、「新川こども施設」だけで1ページつくるような形で記載してもいいのではないかと感じました。また、そのほかにはどういったことを考えているのかというところも、もし書ければ伝わるようにしていただければと思います。

続いて、多文化共生ということで、パブリックコメントで多くの意見が出て、否定的な意見が多いというところもありますが、私は進めていくべきだと思う一方で、やはり不安に思っている県民の方が多いと感じています。先ほど意見もありましたけど、慎重な進め方がやはり重要視されるのではないかと思っております。

その中で、外国の方を誰でも受け入れるよりはスマールスタートで、例えばある程度、富山との親和性のある地域の方から徐々に拡大していったり、スケジュール感など進め方

をどのように考えているのかということをより可視化していくべきと考えます。こういったコメントがあふれてしまうと進めにくいところもありますので、その不安を解きほぐすということと、スマートスタートから徐々に拡大していくという工程が非常に大事なのでないかと思います。どことパートナーシップを結んで、ここの人を受け入れて、ここはより安全な地域だからというようなこともいいのではないかと感じているところです。

最後に3つ目、周知・広報の資料を見ていると、主にSNS、動画、ホームページ、チラシといったものを使うとなっていますが、私はテレビなどのメディアとタイアップするフェーズも一つあってもいいのではないかと思っております。CMというのは行き過ぎかもしれません、やはりメディアの力は大きいもので、そことタイアップして特集番組を小まめに発信することなどもいいのではないかと思っています。というのも、県の将来像のイメージ、ビジョンを伝えるというところで、富山県のSNSでどれだけフォロワーに見てもらえるのかを考えると、興味のある人は見るけど、なかなかそこまで手が回らない人は見られないという、知る人は知っているけどなかなか伝わらないという環境にあると思っています。そうであれば、ぱっと目に入るような環境づくりというところも必要だと思い、提案させていただきます。

【荒井委員】

まず、この審議会を通じまして、富山県の現状、そして将来について学ばせていただくよい機会になったと思っております。

大前提として、人口減少が大変進んでいる中で将来像をつくる上で、私どもの学校でもやはり高卒に対する求人�数が本当に最近増えており、それだけ需要と供給のギャップが激しくなっている中で、どうしても労働力は外国籍の力を借りざるを得ないということを改めて感じております。それが実際に最近、外国籍の移住が増えてきている現状にもつながっていますし、今回いろいろと議論になってますけれども、やはり多文化共生は欠かせない要素になってきていると改めて感じました。

実際、いろいろな御意見がある中で、まずは関わりを持つ機会を増やすことが大事かなと思います。関わりを持たないと、何か先入観であったり、そういういろいろな感情が膨らむと思うのですけれども、そういう機会をぜひ県としても増やしていただくのがまずは第一歩ではないかと感じます。

【齋藤会長職務代理】

国立大学の学長会議というものがありまして、この3年間、今後10年、15年後の高等教育をどうするのかということをかなり真剣に考えてきました。資料2の3ページの「富山県を取り巻く環境変化」にありますが、人口減少は少子化につながります。ではどうしたらいいのかというところなのですが、やはり総合教育力を高めること、子どもたちの数が減るのだったら質を高めるということで、大学院教育や社会人教育を強化する、そして留学生にたくさん来ていただいて教育をするという形の戦略を取るようにしています。総合計画に記載されている人口減少やイノベーション、グローバル化、価値観の多様化は共通しています。

もう一つ非常に重要なのは、国立大学が今まで産学連携にあまり寄与してこなかったのではないかというところです。そのためには国にも働きかける必要がありますが、今まで文部科学省は経済産業省と予算の取り合いなどでライバル関係だったのですが、もう少し協力する形で大学の持っている知識をいかに社会実装するかということをやられたらどうかと提案したら、文部科学省の部長の方から、最近は両省でかなり電話も毎日して、連携してやるようにしていますということで、随分省庁のほうも変わってきております。

もう一つは、15年後には大学の中の30%は留学生で占めるようにするというだけではなくて、こちらからどんどん出ていくということです。受け入れるだけではなくて、どんどん出ていくって交流するような流れになってきています。ですから、外国の方に対して少しネガティブな印象を持たれているのは非常に私としては心配です。

もう一つ、労働賃金が安いから海外から人を雇うということは間違います。海外では、かなり彼らの生活水準は高まっていますので、日本に来るといろいろなことが勉強できて、しかも高収入を得られるという形に変えていかなければまずいと思います。皆がやりたがらない仕事を外国人にしてもらうというのはおかしいと思います。そういう形で皆さんで協力し合って世の中をよくしていくことで進めていかないといけないと思っています。

人口減少と少子高齢化をどうするのかということですが、富山県を魅力のあるまちにして、県内から県外に出ていかないように留めておくということ、そして県外からは魅力のある人がどんどんやってくる。また、先ほど社会人教育と言いましたが、社会人になった方にも戻ってきていただく、そういうまちにすべきだと思っています。

そこでは、やはり国際協調が絶対に望まれます。先日、インドとタイを訪問して私が感

じたのは、これまでと違ってアジアのとある大国に対してのバッシングがかなりありました。できれば日本と一緒にやりたいということは、これまで日本がやってきた施策は間違いではなくて、日本と一緒にになって頑張っていこう、ワイン・ワインの関係でいこうということでした。インドのチェンナイに行ったのですが、ジェトロの関係で向こうの企業の方ともお話ししたところ、日本に対しての信頼度が今、非常に高まっています。そういう面で、私たちが今までやってきた姿勢が間違いではなかったと思いました。

もう一つは、外国の方に来ていただくだけではなく、日本からも出ていって、向こうの方とコミュニケーションするという、富山もそういったまちになってほしいと思います。富山から海外に出ていく人も増やすべきで、海外から魅力のある富山に戻ってきていただくことも大事だと思っています。

また、国立大学協会で非常に議論されたのは生成AIをどうするかです。シンギュラリティといって、AIが人間の能力を超えるのが、以前は10年後くらいだったのが、今は3年後くらいではないかと言われています。いかにAIをうまく使って、生活の質を高めていくか、AIに支配されるのではなく、AIの意見も聞きながらいかにより社会をつくりしていくかということを考えていかないといけないと思っていますので、AIのことも少しだけここに入れていただくといいかと思います。恐らく、5年後であれ10年後であれ、AIに関する対応は取らざるを得ないです。AIをよりうまく利用するという形が必要だと感じています。

最後に、国立大学協会で3年間こういったことを議論してきてよかったですと思うのは、今年になって潮目が変わったのですが、今まで大学同士がライバルだったところ、今年になって風向きが変わって、皆で一緒に協力をして、底辺から底上げするという形に変わってきました。ですから、皆さんいろいろな分野の方が激しく議論し合った後、それで連帯感が出るということが極めて重要だと思います。この審議会も非常に重要で、皆さん、どんどん声を上げていただいて、いろいろな分野から意見を出していただいて、それで同じ方向に向かってつくっていくといった連帯を出すと、富山県はすごく魅力のあるまちになると思いますので、またこういった形で議論を進めさせていただきたいと思います。

【麦野会長】

皆さんから、分かりやすい計画をどう周知していくか、どう実行していくかということでお意見いただきました。皆さんの御意見も参考にしながら進めていきたいと思います。

最後に、私からも一言だけお話しさせていただきますと、まず、本年1月に知事から総合計画の策定の諮問を受けまして、委員の皆様全員からいろいろな御協力をいただき、約11箇月間にわたり、本日ここまでたどり着いたということです。これに対しまして心から感謝を申し上げたいと思いますし、引き続き皆様の御協力をお願いしたいと思います。

私の意見ですが、1つは、今回、10年後の姿を見据えた上で、今後5年間をどうするかということでつくってきたわけであります。先ほど中澤委員の話にもありました、民間では5年間も長いと言っています。5年後のことはなかなか分からぬので、5年後どうなっているかというときに、途中で修正しないということではなくて、勇気を持って変えていくことも必要だと私も思っております。

2つ目は、斎藤委員の話にもありました、多文化共生のいろいろな御意見がありますが、まず、県民がいろいろな機会に海外と接する機会をつくるということも大事なことだろうと思います。ですから、観光の分野でインバウンドという話だけではなく、アウトバウンドでこちらからも出ていかなければならぬと思います。世界的に見ても、あるいは日本全体で見ても、富山県の若者のパスポートの取得率があまりにも低いという話があります。県もそれを問題視されて補助も出しておられるわけでありますが、やはりいろいろな機会をつくって若者に海外を見てもらうことは大変大事なことではないかと思います。いわゆる共生社会を迎える上で、そういうこともぜひ何らかの形で推進していただきたいと思います。

また、今週の金曜日に広島経済同友会が私ども富山経済同友会に視察に来られます。このきっかけの一つは、従来から広島経済同友会と交流を図っているということもあるのですが、前富山県副知事の横田さんが広島県知事になられまして、富山はウェルビーイングが進んでいるということもあり、富山を見に行ったらどうかというアドバイスもあって、富山のウェルビーイングの実態を見に行こうということでいらっしゃいます。今回、総合計画のテーマに知事の基本政策であるウェルビーイングを据えて取り組んでいこうということは大変賛成なのですが、いろいろな県の同友会の方たちを見ていると、ウェルビーイングという話をし始めたのは富山県が恐らく1、2で、本当に早く取り組んでいたと思います。ですが、現在はどうなのかと考えると、まだまだ課題はいくつもあると私自身も思っています。それには県民一人ひとりがウェルビーイングを意識して活動していかないと、県だけが言っていても仕方がないわけですので、このことについてもまた一工夫、二工夫

をお願いしたいと思います。

そして今回、最重要課題である人口減少対策について、「緩和」と「適応」という切り口で対策を考えたことはよかったですのではないかと思います。人口減少はある程度受け入れざるを得ない状況でありますので、どう対応していくかという中で、先ほどご発言のあったインフラについても自分事として捉えていくことも大変大事なことですし、そういった視点がいくつも今回この計画の中に織り込まれたのではないかと思います。そういう意味では、これを県政の指針としてこれから予算化して取り組んでいくことが次の大事な課題であると思っています。

今ほどの県だけではなくという話は、当然市町村もそうですし、地域の団体、NPO、企業、そして県民一人ひとりがそれぞれの役割を果たしていき、積極的に参加していくことが必要なのではないかと思います。

県民との共創ということもよく出でますが、一つ一つ着実に実行していただけることを期待して私のコメントとさせていただきます。

【新田知事】

今ほど麦野会長のお話にもありました、この新たな総合計画の策定を麦野会長に諮問したのが今年の1月、寒い時期であります。それから猛暑の夏を経て、また季節がめぐり、大分冷え込んでまいりました。本当に長い時間をかけて、麦野会長、そして斎藤会長職務代理はじめ、審議会委員の皆様にはお知恵を拝借し、労力もかけていただき、何とかここまでこぎ着けることができたということに、心から感謝を申し上げたいと思います。会長はじめ、本当に私の思いでこの委員になっていただいた方、また、絶対にこの方に入っていただきたいということでお願いした方々、委員の皆様、改めてすばらしい方々が富山県におられるということを実感しているところでございます。本当に皆様のおかげでここまでこぎ着けることができたと思っております。まずはこのことについて心からお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

皆さんにおっしゃっていただいたように、よい計画ができつつあると思っています。すばらしい委員の皆さんの知恵でいろいろな御意見をいただき、それを我々事務局で取りまとめるという作業をしてまいりました。これは大変ではありましたが、喜びのある作業でもありました。そういう意味でも本当に皆様に感謝をしたいと思います。

先ほどオンライン参加の藤野委員からは、今、富山県にはモメンタムが出てきていると

いうお話をありました。ぜひこのモメンタムを大事にしながら、ただ、モメンタムに終わらせずに、実際の経済、あるいは実際の社会上も様々な面で力のある富山県にしていくため、総合計画を着実に進めていきたいと思います。審議会は富山県のベスト・アンド・ブライテスの方々にお集まりいただいておりますが、実際にこの計画を実行する上では本当に県民の皆様の御参画、御協力が必要です。つくり上げる段階でも15市町村での「未来共創セッション」を通じて県民の皆様のお知恵もいただいてきました。これから実行する際には、やはり県民の皆様に知っていただき、分かっていただき、動いていただく、そしてこの計画を実現していく、そのような御協力もいただけるよう、私もまた先頭に立つてこの計画の説明などにも当たっていきたいと思っています。

冒頭に、7泊11日でサンパウロとニューヨーク、プリンストンに行ってきましたという話を申し上げました。中沖知事のときに、海外と交流しようということでいくつもの姉妹提携がされました。その姉妹提携からちょうど節目の年に当たっているものですから、サンパウロは40周年になりました。昨年は中国遼寧省との40周年でした。そして、来年はオレゴン州との35周年になります。オレゴン州については、つい先月ですけれども、オレゴン州知事が日本にいらっしゃって、レセプションにお招きをいただき、いろいろな交流をしてまいりました。約40年前、中沖知事の頃に遼寧省、サンパウロ州、オレゴン州と姉妹提携をした頃、当時の人口はいずれも向こうの方が多かったと思います。今、サンパウロ州は約4,200万人、遼寧省は約4,500万人、オレゴン州は約440万人ですから、人口では40年前もかなわなかったのだと思いますが、県あるいは州の力としては比較的富山県のほうが優位にあった時代だったのではないかと思います。40年前の中国、40年前のブラジル、40年前のオレゴン州と当時の富山県を比べますと、もしかしたらこちらのほうが上から目線でいられたのではないかと思いますが、40年たって、それぞれの州を回ってきたところ、明らかに、遼寧省あるいはサンパウロ州、そしてオレゴン州は大変に力があるということあります。オレゴン州などは40年前に私もよく行きましたけれども、農業とナイキだけの州でした。それが今や半導体が集積するハイテクの州になっています。それぞれの州でそれぞれのリーダーの下でそれぞれの州民でそのような発展を遂げてきたのだと思います。これを羨ましいと思うのではなくて、そんな伸びゆく州と我々はいい関係を保ってきたのだということを活用していこうということで、改めて姉妹友好提携関係の再構築に走り回っているところでございます。

今回の計画をしっかりと進めることによって、またかつてのようになぞぞれの友好提携

先と対等にやり合える、そんな富山県にしていきたいと考えております。

このモメンタムを大事にしながら、また県民の皆さんと共に勢いのある富山県にしていくことを知事として先頭に立って進めていきたいと思います。

その上で、今回まとめさせていただいたこの富山県総合計画ですが、意外なことにこの「富山県総合計画」という名称の総合計画は今までなかったわけでありまして、そこに「『幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～』を目指して」という基本理念を付して計画のタイトルとしましたけれども、これを着実に実行していくことを皆様にお約束しまして、今日、私からのコメントとさせていただきます。本当にありがとうございました。

6 閉会